

Internet Weekがオンラインに！ そこに託したこと

Internet Week 2020 事務局
一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

根津智子

Internet WeekのWebに記載した「概要」

- コロナ禍の影響で今年のIWはオンラインに。
- しかしながら、これを決めたときに、IW事務局を務めるJPNICに、オンラインイベントの経験はありませんでした。果たしてオンラインで、IWの目的を果たすことができるのだろうか？皆さまにご満足いただけるのだろうか？
- 不安がいっぱいの中、日々の紆余曲折を経て、今回の配信と配信チームに託したことをお話しします。



残念ながらフェイスガード必須の
配信になってしまいました・・・

IWオンライン開催を決めた3～4月の状況

● 3月頃の状況

- COVID-19が拡大しており、JPNICでも在宅勤務が推奨される
- IWの開催そのものについて、「ピンチはチャンス。オンライン化してリーチを広げよう」という声がある一方、「IWは普及啓発のみならず、交流も大きな要素。オンラインでは魅力が半減するので、今年の開催は見合わせては？」という両極端な声がある中でのスタートと決断

● 4月頃の状況

- 緊急事態宣言の発令
- 全事業について、基本オンラインで進めることに
- IWの時期(11月)にCOVID-19がどうなるか想像がつかない
- Web会議システムにおける、ミーティング機能の使用は向題なレベル(Cisco WebEX、Zoom)であったが、ウェビナーやオンラインセミナーの開催経験はゼロであった

経験値レベル

1

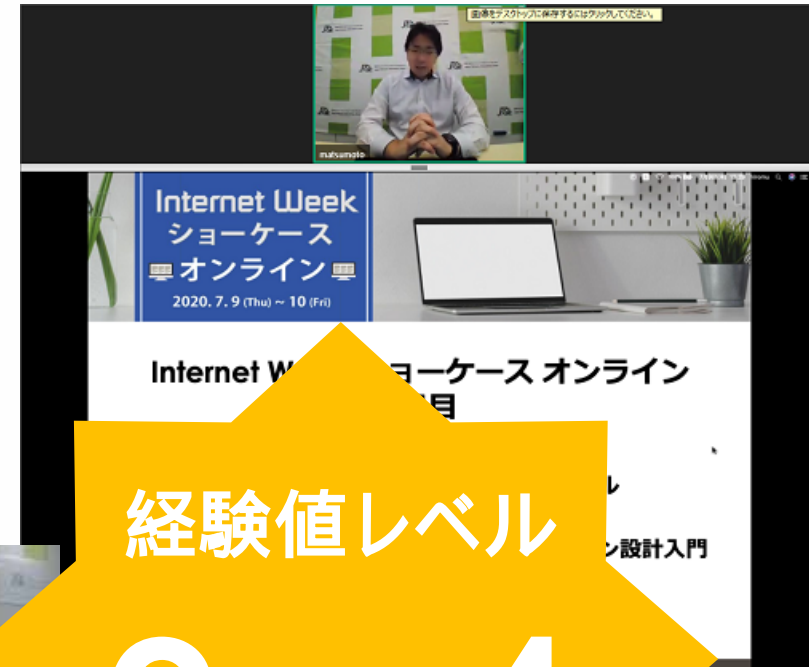
試行錯誤しながら、4月以降のイベントはオンラインに

- いくつかのWeb会議システムを併用して利用し、一步一步、どのシステムがどういう場合に適しているか等、実績を積む

- 4月2日(木) APRICOT 2020参加報告会
- 4月20日(月)～21日(火) JPNIC技術セミナー
- 4月21日(火) 第57回ICANN報告会
- 5月11日(月) IETF報告会(107th Virtual)
- 7月9日(木)～10日(金) Internet Week ショーケース
- 8月4日(火) 第58回ICANN報告会
- 8月20日(木)～21日(金) 初心者向け「インターネット入門」
- 9月 JPNIC評議委員会

- 自社でウェビナーを実施するとこんな感触だという手応えは、夏頃には大体つかめた

- しかしすべて、無料での提供



レベル4とは？：ウェビナーをやってはみたけれど・・・

	内容	参加人数	備考
技術 セミナー (4月20日・21日)	<ul style="list-style-type: none"> IPv6・DNS・UNIX・ルーティング・セキュリティ・PKIといったインターネットの基盤技術に関する有料・無料セミナー 	述べ150名 Zoomで配信	<ul style="list-style-type: none"> 毎年4月、6月と約2週間かけて開催。しかし今年は4月のみ実施 ハンズオンを含む、有料セッションは実施せず、『インターネットとは』、『資源管理の基礎知識』という無料セミナーのみを基本自宅から配信 有料配信については、課金・ハンズオン環境を整え下期に実施予定 通常の無料セミナーのオンサイト開催比較し、オンラインでは3倍程度参加者増
IW ショーケース (7月9日・10日)	<ul style="list-style-type: none"> Internet Weekに参加しづらい方に向け、前年のIWで評判の良かったプログラムをダイジェスト的に届け、魅力を知ってもらう。 例年、地方開催とオンライン配信のハイブリット 	述べ524名 Go to Webinarで配信	<ul style="list-style-type: none"> 徳島での開催予定を変更し、オンラインのみで実施 オフィスの簡易スタジオをからのライブ配信。司会と事務局の一部のみが出社し、講演者は全員リモートで登壇 参加者の居住地は、日本の地域別人口比に近い傾向になり、首都圏以外の地域の方が幅広く参加、オンサイト開催の数倍の参加者を集める
インターネット 入門 (8月20日・21日)	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク業界に入社・異動した方を対象に、インターネットができた背景やつながる仕組みや業界が回っていく仕組みについて考える契機とするもの 	述べ390名 (ユニーク数は約200名) 某社システムを断念し、Zoomで配信	<ul style="list-style-type: none"> 例年4月後半に開催であるが、準備都合により、8月に開催 JPNICの登壇パートは事前録画し、当日はその録画に合わせてトークと質疑応答を実施し、チャットも利用し参加者のQAにはすべて答えるスタイルで実施 参加人数は例年の3倍強、業界3年未満の参加者が約70%。参加者の執務環境は、在宅・オフィスからの参加がおよそ半々

- ウェビナーは、参加者にとって時間と場所の制約が緩和されるため参加者が増えるが、**参加が増えると、配信プラットフォームの安定性や日本語対応などのWeb上でのサポート手厚さも気になりはじめた。無料ならエクスキューズもできることも、有料配信では言い訳できない**
- **音声や映像にも安定性や、プロフェッショナル感が必要とされる**
- 各社ウェビナーのUIはどれも大きな観点では違わないが、細かくみれば、制御できることが違った。**登壇者100名が不安なく登壇できる環境の提供が必要だと想像できた。**

レベル4とは？：ウェビナーをやってはみたけれど・・・

	内容	参加人数	備考
技術 セミナー (4月20日・21日)	<ul style="list-style-type: none"> IPv6・DNS・UNIX・ルーティング・セキュリティ・PKIといったインターネットの基盤技術に関する有料・無料セミナー 	述べ150名 Zoomでの配信	<ul style="list-style-type: none"> 毎年4月、6月と約2週間かけて開催。しかし今年は4月のみ実施 ハンズオンを含む、有料セッションは実施せず、『インターネットとは』、『資源管理の基礎知識』という無料セミナーのみを基本自宅から配信 有料配信については、課金・ハンズオン環境を整え下期に実施予定 通常の無料セミナーのオンサイト開催比較し、オンラインでは3倍程度参加者増
IW ショーケース (7月9日・10日)	<ul style="list-style-type: none"> Internet Weekに参加しづらい方に向け、前年のIWで評判の良かったプログラムをダイジェスト的に届け、魅力を知ってもらう。 例年、地方開催とオンライン配信のハイブリット 	述べ524名 Go to Webinarでの配信	<ul style="list-style-type: none"> 徳島での開催予定を変更し、オンラインのみで実施 オフィスの簡易スタジオをからのライブ配信。司会と事務局の一部のみが出社し、講演者は全員リモートで登壇 参加者の居住地は、日本の地域別人口比に近い傾向になり、首都圏以外の地域の方が幅広く参加、オンサイト開催の数倍の参加者を集める
インターネット 入門 (8月20日・21日)	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク業界に入社・異動した方を対象に、インターネットができた背景やつながる仕組みや業界が回っていく仕組みについて考える契機とするもの 	述べ390名 (ユニーク数は約200名) 某社システムを断念し、Zoomで配信	<ul style="list-style-type: none"> 例年4月後半に開催であるが、準備都合により、8月に開催 JPNICの登壇パートは事前録画し、当日はその録画に合わせてトークと質疑応答を実施し、チャットも利用し参加者のQAにはすべて答えるスタイルで実施 参加人数は例年の3倍強、業界3年未満の参加者が約70%。配信環境は、在宅・オフィスからの参加がおよそ半々

- 確実に配信するには、音声と映像の習熟が必要。特に参加者や登壇者が多い場合、かつ有料の場合、敷居が格段に上がる
- 無料ウェビナーと大規模有料ウェビナーの配信は、別物であることを自覚する

経験値レベル
10が
必要！？

配信検討以前に、全体構成上で、もやもやしたこと

• 費用設定について

- セッションを無料にするか？有料にするか？

➡それによって、参加登録や配信プラットフォームに影響が生じる、資金計画が変わる

• セッション設定について

- 一セッションの長さはどのくらいが適切か？パラレルでセッション
ハンズオンセッションはやれるのか？

➡それによって、提供するセッションの内容や数が変わる

• 会場の利用について

- 全セッションオンラインのみの提供なのか？

COVID-19の状況が許せば、外部会場も利用するハイブリッドを実現する

- ハイブリッドの仕方もさまざま。講演環境をハイブリッドにするのか、それに加えて参加者の参加環境もハイブリッドにするのかで、取りうる選択肢が複数になる

➡それによって、配信・テスト会場等の環境や条件が変わる

配信経験以前に
何をやりたいか
明確にする

Internet Weekは、今年限りのイベントでない。「今年はコロナ禍の影響で」と、成り行きで済ませるのではなく、来年度につながる仕組みとして考える必要があった

配信チームにお願いした、たくさんのあれこれ

- **【技術的】安定して、冗長化された配信を提供して欲しい**
 - とにかく音声はクリアに配信して欲しい
 - ライブ登壇できない講演者の動画や、スポンサー動画をきれいに流したい
 - 80名を超えるだろう登壇者にとって、講演しやすい環境の実現。登壇場所を選べるように。遠隔登壇には普段利用するオンラインミーティングの延長線上にあるものがのぞましい
 - 参加者にとっても、とにかく参加しやすい環境も実現してほしい。毎日接続URLが変わるのは複雑。また、Zoom利用禁止の会社組織もあるかもしれない
 - 4日間Zoomにつなぎっぱなしは現実的でない場合もあるので、ストリーミングサービスも併用して使いたい
 - どんな場合でも、QAなど含めた参加者とのコミュニケーションをスムーズにハンドリングしたい
- **【体制】ウィルスに負けないチーム編成と崩壊しない運営オペレーション**
 - 未来の状況は常に未知であるが、どんな状況になっても、崩壊しないで欲しい
- **【今後に向けて】メンバーのスキルアップ**
 - せっかくやるならスキルアップしたいし、楽しくやりたい

謝辞：配信チームメンバーと配信スポンサー

名前	所属
青山 尚暉	株式会社ブロードバンドタワー
板谷 郷司	COncference Network BUilders(CONBU)/(株)セレマアシスト
島田 直人	株式会社日本レジストリサービス(JPRS)
高木 萌	KADOKAWA Connected
佐藤 秀樹	JPNIC
塩沢 啓	JPNIC
花井 直樹	JPNIC
山崎 信	JPNIC



配信機材のご提供

 **KADOKAWA**
KADOKAWA Connected Inc.

配信プラットフォームのご提供

d w a n g o